

JSR株式会社

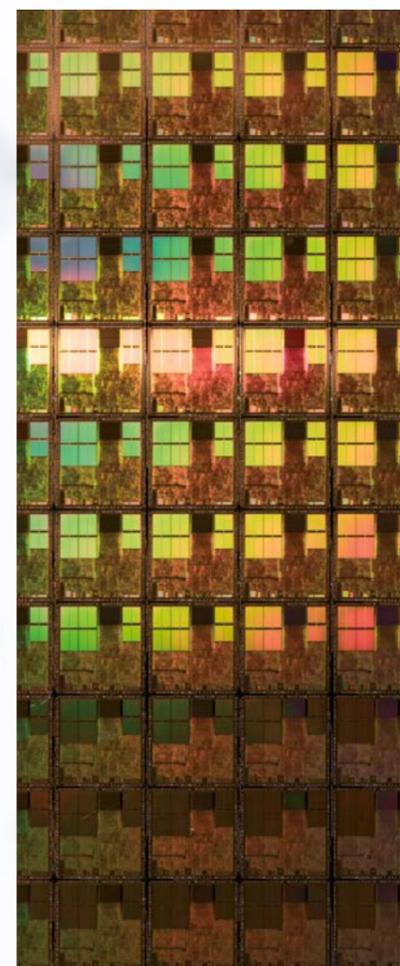


MATERIALS INNOVATION

会社案内 CORPORATE PROFILE

マテリアルで、社会を支える

JSRグループが提供している製品は、タイヤをはじめとする自動車関連、液晶テレビやスマートフォン、タブレットPCなど、皆様の日常生活に関わるさまざまな製品の素材・部材として世界中で使用されています。



INDEX

- 01 マテリアルで、社会を支える
- 03 社会に貢献し続ける化学企業へ
- 05 トップメッセージ
- 07 THE JSR VISION
- 09 製品紹介
- 17 研究開発の方針と体制
- 19 JSR製品を創り出す現場
- 21 サステナビリティに関する取り組み
- 23 海外ネットワーク
- 25 国内ネットワーク

ELASTOMERS BUSINESS エラストマー事業

創業事業である「合成ゴム」、合成ゴムと合成樹脂の特徴を併せ持つ「熱可塑性エラストマー (TPE)」、合成ゴムや合成樹脂を液体に分散させた「エマルジョン」など高品質な製品を提供しています。また、「工業用粒子」「電池材料」など、さまざまな高機能材料を提供しています。

PLASTICS BUSINESS 合成樹脂事業

自動車部品、家庭電化製品、建材など幅広い用途に使用されるABS樹脂を中心として事業展開しています。

DIGITAL SOLUTIONS BUSINESS デジタルソリューション事業

高分子材料の開発で培った技術を活用し、半導体チップの製造工程で不可欠な各種の「リソグラフィ材料」「化学的機械的平坦化 (CMP) 材料」「先端実装材料」、液晶ディスプレイ (LCD) や有機ELなどフラットパネル・ディスプレイ (FPD) の製造に用いる各種の「LCD材料」「次世代ディスプレイ材料」、3次元造形などに用いる「紫外線硬化樹脂」などを提供しており、グローバルにトップレベルのシェアを持つ製品が多数あります。

LIFE SCIENCES BUSINESS ライフサイエンス事業

JSRグループ内だけでなく、戦略的パートナーをグローバルに拡大しながら、個別化医療に貢献する先端診断分野を含む「診断・研究試薬」と、主にバイオ医薬の創薬から製造まで一貫してサポートする「創薬支援サービス」に注力しています。自社で開発する診断薬材料や抗体医薬品精製用担体など、JSRがこれまで養った高分子技術を応用した材料も提供しています。

OTHER BUSINESSES その他事業

化学品の仕入・販売をはじめ、次世代研究などを行っています。

明日の材料を創造し、 社会に貢献し続ける化学企業へ

私たちJSRグループは、従来からある材料と新しい材料、それぞれの可能性を追求しています。
化学の潜在力を引き出して新しい価値を創り出し、
未来に向けて社会の可能性を少しでも広げるため、挑戦し続けています。
次代を切り拓く材料を通じて、新たな価値を顧客や社会に提供し、社会に貢献することを目指しています。

<1960s> 合成ゴムの 国産化に成功

1957年、国策会社として設立。1960年に四日市工場が完成しスチレン・ブタジエンゴム(SBR)の国産化に成功。その後、各種合成ゴムを開発・製造し、合成ゴムメーカーとして国内トップとなる。1969年に民間会社に完全移行。



1970s

<1970s> 深刻な不況に対応

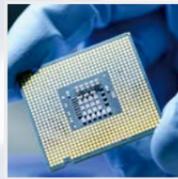
2度の石油ショックで原油価格が高騰。急激な円高と相まって合成ゴムの輸出競争力の低下と需要の伸び悩みで深刻な事態に直面。この状況に対応すべくプラントの省エネ化や生産設備の集約を実施しつつ、事業の多角化戦略を開始。

JSR創業期

1980s

<1980s> 新規事業を創出

1981年、石油化学系製品の高付加価値化を目指しつつ、石油化学系一辺倒の事業構造を変革すべく電子材料分野へ参入。成長著しい情報電子産業に新規な材料を提供し、ともに成長する体制へ。



多角化推進期

1990s

<1990s> グローバル 生産体制の構築

市場のボーダーレス化やアジア新興国の攻勢など産業構造が大きく変化する中、一層の成長のため電子材料事業への資源投入を強化。欧州と北米にフォトレジスト工場を建設し、日米欧での生産体制を確立。ディスプレイ材料は日韓台で生産体制を確立。1997年に社名を「日本合成ゴム株式会社」から「JSR株式会社」に変更。

多角化模索期

2000s

<2000s> ファイン事業の 拡大

トップメーカーとの協業によって世界市場で存在感を拡大。半導体材料やディスプレイ材料を中心にファイン事業を拡大し、事業構造を変革。

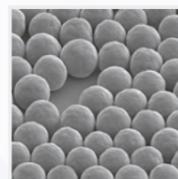
事業構造変革期

2010s

<2010s> 持続的成長を 目指して

2020年のありたい姿を目指して3段階の中期経営計画をスタート。2011年開始の3カ年計画「JSR2013[®]」では、石油化学系事業とファイン事業で差別化を進めつつ、戦略事業としてメディカル材料(ライフサイエンス)や環境・エネルギー分野に投資・育成。

グローバル化の進展



2014

<2014> 成長に結びつける

2014年から3カ年の中期経営計画「JSR2016[®]」では、「JSR2013[®]」で事業課題に取り組んだ成果をもとに、高機能タイヤ用溶液重合SBR(SSBR、エラストマー事業)・半導体材料事業・ディスプレイ材料事業のグローバル化を進展させた。また、ライフサイエンス事業を石油化学系事業、ファイン事業に次ぐ新たな事業の柱と位置付けた。

持続的成長



2017

<2017> 未来に向けた 競争力強化

2017年4月から開始した新たな中期経営計画「JSR2019[®]」では、SSBR・半導体材料事業・ライフサイエンス事業を成長ドライバーと位置付け、収益拡大を推進する。また、デジタルリゼーションへの対応を通じた労働生産性向上にも取り組み、競争力の強化を図る。

2020s

1957年、当時の日本は戦後復興期が終わって高度経済成長期が始まり、産業振興のために石油化学製品が不可欠でした。そこで、合成ゴムの国産化を使命として日本合成ゴム株式会社、現在のJSR株式会社が誕生しました。その後、合成ゴムや合成樹脂など石油化学分野で培った独自の高分子技術をもとに、半導体材料やディスプレイ材料などファイン分野の材料も数多く作り出してきました。そして今、ファイン分野で得た技術をもとに社会の課題に応えるべくライフサイエンス分野でもMaterials Innovationに挑んだ成果が、将来のJSRを支える事業として始動しています。

※「JSR2013」(ジェイエスアールにせんじゅうさん)、「JSR2016」(ジェイエスアールにせんじゅうろく)、「JSR2019」(ジェイエスアールにせんじゅうきゅう)は、企業理念であるMaterials Innovationを実現すべく、innovationを強調して「I」を使用して表記しています。

明日の社会を考えて、 イノベーションへ挑み続けます

先端技術を開拓し、事業構造を変革しています

当社は1957年に合成ゴムの国産化を目指して設立され(旧社名：日本合成ゴム株式会社)、その後、エマルジョンや合成樹脂、半導体材料、ディスプレイ材料へと社会ニーズの変化を踏まえて先端技術を開拓し、事業領域を拡大してまいりました。石油化学系事業やファイン事業で培ってきた技術や人材と、グローバルに広がる社内外の力を結集して、変わり続ける社会ニーズを捉え、当社固有の技術をベースに、事業構造の変革に取り組んでいます。

企業理念に立脚した活動で、持続可能な社会に貢献します

企業理念「Materials Innovation—マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。」に立脚し、マテリアルが生み出す新たな可能性を追求して価値を創造することで、社会に貢献することを目指しています。

社会ニーズの変化にJSRのマテリアルは応え続けます

JSRグループのマテリアルは、タイヤ、家電、半導体、ディスプレイなど、皆様が日常生活のさまざまな場面で触れている多様な製品を作り出すために使われています。また、ライフサイエンス分野など、さらに深い社会ニーズに応えることを目指して新しい事業領域に戦略的に取り組んでいます。グローバルな人間社会の課題を反映したニーズの変化を見つめ、「Materials Innovation」に挑み続けます。



代表取締役CEO
エリック ジョンソン



代表取締役社長兼COO
川橋 信夫

川橋 信夫

THE JSR VISION

2017年4月よりスタートした中期経営計画「JSR20i9^{※1}」では、

2020年のあるべき姿に向けた持続的変革を図る第三段階「未来に向けた競争力強化」の期間と位置づけ、継続的な変革を実施してまいりました。

今後はさらに、ダイナミックに変化する環境に順応するためのレジリエンス(強靱)な体制を確立していきます。そのために、すべてのステークホルダーに価値を創造していくサステナビリティ(持続性)の概念を事業戦略に組み込み、企業価値を向上していきます。

「JSR20i9」事業別達成状況

エラストマー事業

- 溶液重合SBR(SSBR)：グローバル市場で販売を拡大。ハンガリーの生産工場JSR MOL Synthetic Rubber Ltd. が完成し、世界3拠点からの供給体制を確立。

合成樹脂事業

- テクノUMG株式会社を発足し組織統合を完了。グローバル市場で高機能製品群の販売を拡大。

デジタルソリューション事業

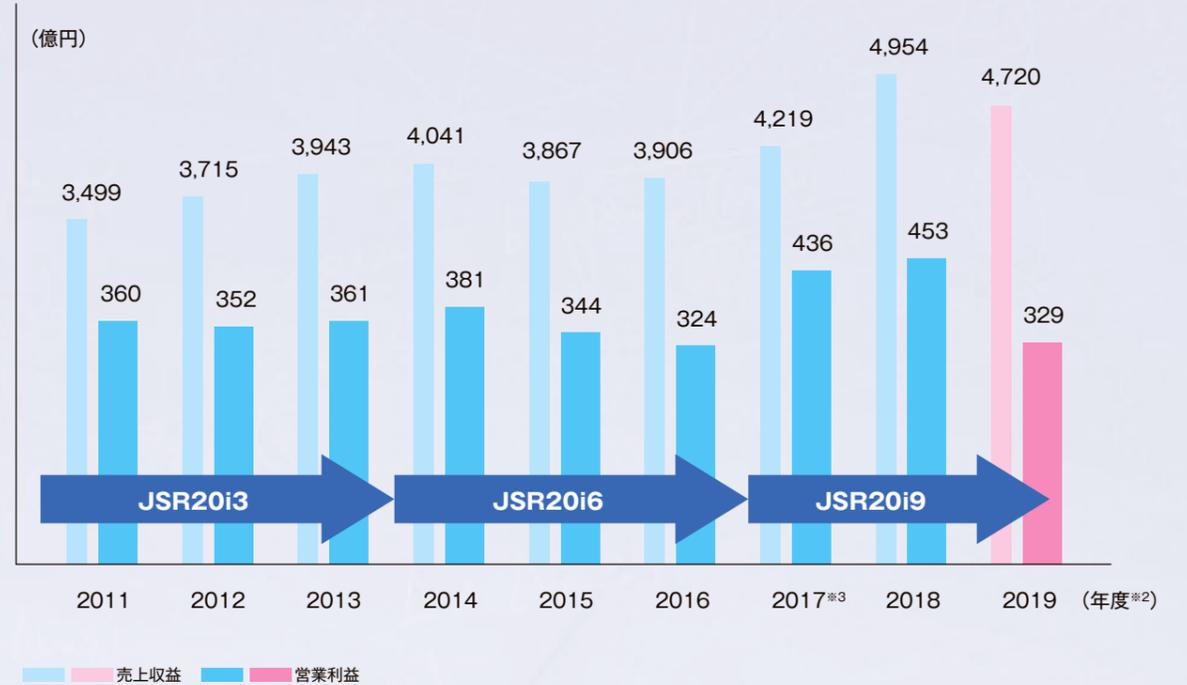
- 半導体材料：先端リソグラフィ材料の販売拡大、EUVリソグラフィ材料の供給開始。CMP材料・実装材料・洗浄剤といった周辺材料の販売伸長。
- ディスプレイ材料：需要が大きく増加している中国で配向膜、絶縁膜の販売を拡大。

ライフサイエンス事業

- 売上収益500億円の達成、第3の柱へ成長。医薬品の開発支援から製造受託まで一貫したプロセス支援体制を構築。

デジタルイノベーションへの対応

- マテリアルズ・インフォマティクスを基軸としたR&Dのデジタル変革を推進するために、各種シミュレーション技術、機械学習などを積極的に進めています。また、工場においては熟練技能者の優れた技術やノウハウを、デジタル技術を活用して形式知化し活用する「スマートコンビナート」の取り組みを進めています。
- 研究を中心としたデータサイエンティストの育成に注力し、単なる効率化だけではなく、真のビジネス価値の創出を進めています。また、将来的に新たな事業の創出も目指していきます。



Phase I

JSR20i3^{※1}

JSR20i3の成果

- 成長に向けた戦略明確化
- 資源投入の意思決定

Phase II

JSR20i6^{※1}

JSR20i6の成果

- グローバル化の進展
- 戦略事業の整理統合とライフサイエンス事業への集中

Phase III

JSR20i9^{※1}

JSR20i9の成果

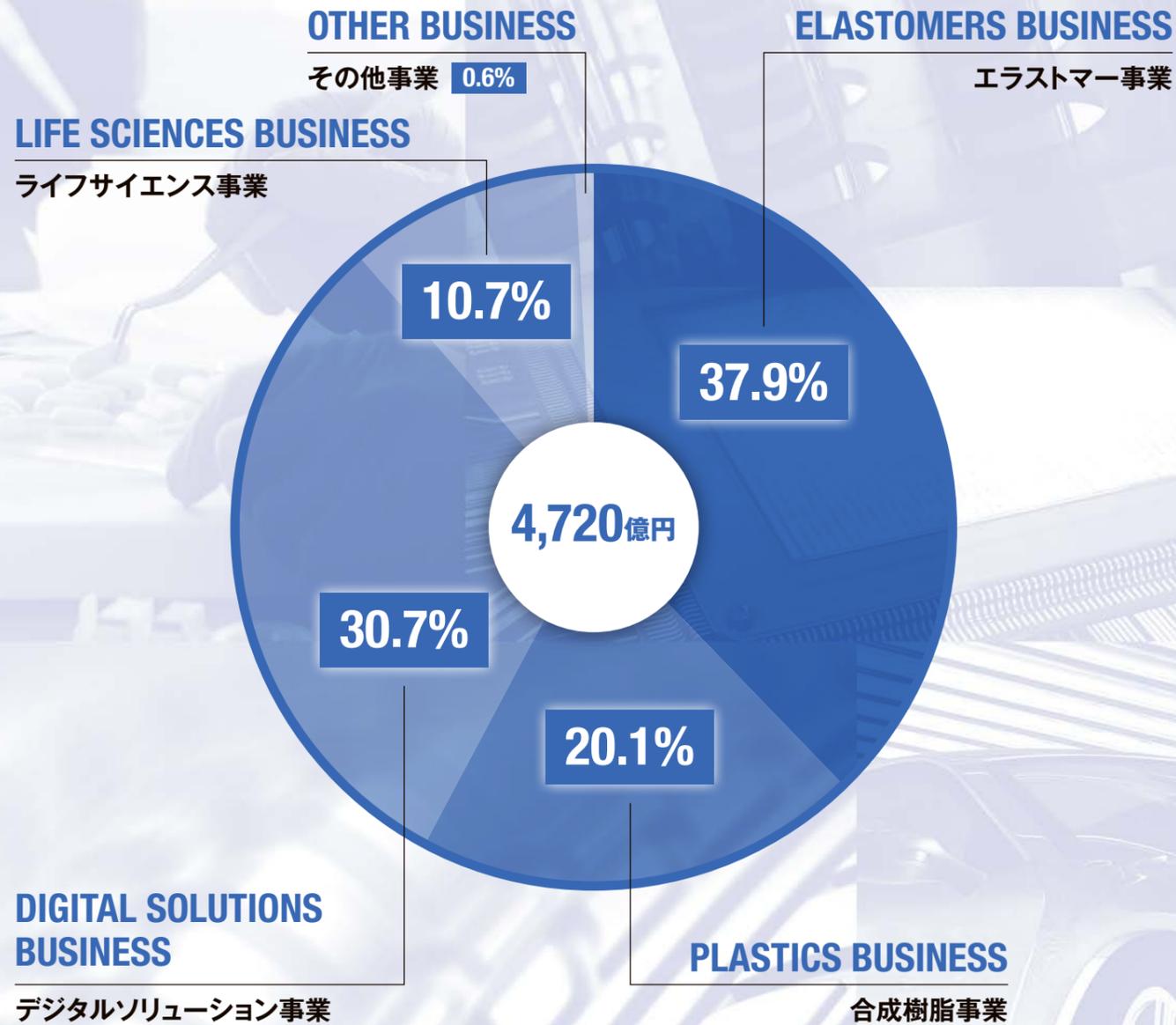
- SSBR、半導体材料、ライフサイエンス事業における利益成長
- デジタルイノベーションへの対応の深化

将来にわたる
持続的成長により、
ステークホルダーへの
責任を果たしていく

(※1)「JSR20i3」(ジェイエスアールにせんじゅうさん)、「JSR20i6」(ジェイエスアールにせんじゅうろく)、「JSR20i9」(ジェイエスアールにせんじゅうきゅう)は、企業理念であるMaterials Innovationを実行すべく、innovationを強調して「i」を使用して表記しています。
(※2) 毎年4月1日から翌年の3月31日までの期間
(※3) 2017年度よりIFRS適用

JSRグループのマテリアル

さまざまな製品の素材・部材として、あるいは製品を作る過程で使われるJSRグループのマテリアル。培ってきた技術や人材、グローバルなグループ力を結集し、マテリアルを通じて新しい価値を生み出し、社会ニーズの実現に貢献することを目指しています。



主要事業売上収益比率(2019年度)

ELASTOMERS BUSINESS エラストマー事業

「エラストマー」
合成ゴムの総合メーカーとして、
グローバルスタンダードの
製品を展開中

JSRIは1960年に国産合成ゴムの第1号製品を誕生させて以来、社会や産業の発展に応じて幅広い製品を提供してきました。合成ゴムメーカーとして、タイヤ用ゴム・工業用ゴム・熱可塑性エラストマーなど幅広いゴム・樹脂系製品で暮らしを彩っています。また、低燃費・高機能タイヤ用溶液重合SBR(SSBR)で世界トップを目指しています。(※1)



汎用合成ゴム

特徴的な分子構造を持ち、優れた加工性、動的性能が特徴のSSBRは主に低燃費・高機能タイヤのトレッドに使用されています。乳重合SBR(ESBR)は引張り強度や耐老化性、耐摩耗性に優れ、自動車タイヤのトレッド部分などに使われます。ポリブタジエンゴム(BR)は低温特性が良く高反撥弾性を有することから、大型車用のタイヤやゴルフボール、工業製品の原料として使用されています。その他医療用途向け製品も提供しています。



熱可塑性エラストマー(ブタジエン系・スチレン系)

独自の技術で開発された1,2-ポリブタジエン「JSR RB®」は、靴底材、メディカルチューブ、フィルムなど幅広い分野で使用されており、世界各国に輸出しています。スチレン系熱可塑性エラストマー「JSR TR/SIS」は、樹脂やアスファルトの改質、粘着剤、フレキソ印刷版などに使用されています。独自の構造制御をした水添ポリマー「JSR DYNARON®(ダイナロン)」は、ポリオレフィンとの相容性や粘着特性に優れ、表面保護フィルムなどに使用されています。



特殊合成ゴム

耐油性に優れたニトリルゴム(NBR)は、シール部品やホースなどの自動車部品のほか、各種ゴムロールなどに使われています。耐熱性、耐候性、耐オゾン性に優れたエチレン・プロピレンゴム(EPM/EPDM)は、パッキンやホースなどの自動車部品のほか、電線、ベルト、防水シートや合成樹脂の改質剤などに使用されています。気体不透過性に優れたブチルゴム(IIR)はタイヤのインナーライナーや医療用途に使用されています。



熱可塑性エラストマー(オレフィン系)

オレフィン系熱可塑性エラストマー「JSR EXCELINK®(エクセリンク)」は加硫ゴム並みの弾性を持ちながら、熱可塑性樹脂と同等の優れた加工性を実現。自動車、電気・電子機器などで加硫ゴム代替用途に使用されています。省エネ、省資源、リサイクルが可能で環境に優しいのが特徴です。



(※1) エラストマー事業は株式会社エラストミックス、JSRIレーディング株式会社などのグループ企業と連携して事業を運営しています。

ELASTOMERS BUSINESS エラストマー事業

PLASTICS BUSINESS 合成樹脂事業

「エマルジョン」

培った技術と経験を活かした、
高機能化学素材

合成ゴムの製造技術をベースにSB(スチレン・ブタジエン)ラテックスやアクリルエマルジョンなど、多くの特殊機能製品を展開しています。さらに、ファイン事業で培った技術と経験も活かして、快適な生活環境づくりに貢献する素材を提供しています。(※1)



SB LATEX・PCL

SB(スチレン・ブタジエン)ラテックスは特性の異なる多様なグレードを揃えています。主力製品は「PCL(ペーパーコーティング用ラテックス)」で、強力な接着性と優れた印刷適性により、紙のコーティング剤や塗料として雑誌やカタログ、包装材料などの塗工紙に幅広く使用されています。また、工業用接着剤としての広い適用や、スポンジ状に発泡させたフォームラバーは寝具や靴底のミッドソール、化粧パフなどに加工されています。



電池材料

高度なエマルジョン合成技術を駆使して、最新の二次電池用バインダーを開発しています。JSRの電池用バインダーは、今日のスマートフォンやPC、電気自動車などで使用されているリチウムイオン電池やニッケル水素電池の電極板を製造するのに欠かせない材料として、優れた結着性や電池性能、信頼性が市場で高く評価されています。従来の溶剤系バインダー(PVDF)とは異なり、環境やコストに優しい水系の高性能バインダーです。



高機能アクリルエマルジョン

粘着剤、床艶出し剤などで培った水系ポリマー合成技術と配合技術の融合から生まれた高機能アクリルエマルジョン製品(AE)が新たな用途を切り開きます。軟質フォーム用AEのフォーム体SOFRYL®(ソフリル)は、従来品より非常に軟らかく、自動車用吸音材、家庭用タイルカーペット、各種床材吸着シートなどに使われています。さらに電子機器緩衝シート、楽器消音材などに拡大中です。また新たに開発した高耐水粘着剤AQUATRAN®(アクアトラン)もオレフィン基材への貼合や屋外フィルムテープなどでの使用が期待できます。



水系高耐久防汚性エマルジョンSIFCLEAR®(シフクリア)

SIFCLEAR®は、フッ素ポリマーとアクリルポリマーとを分子サイズで複合化した水系エマルジョンです。耐候性、防汚性に優れ、水系塗料用の樹脂バインダーとして、外壁や屋根などの建材用途に使用されています。防汚性を活かした適用用途として遮熱塗料があり、汚れが遮熱塗料の熱線反射効果を損なうことを抑制するため、遮熱効果の長期間維持に貢献できます。さらに、水系化が進む構造物・重防食塗料用途(工場、橋脚など)へも使用が拡大しているほか、今後はフィルムや樹脂などの各種基材への防汚コーティング用途も期待できます。



(※1) エマルジョン事業は株式会社イーテック、JSRレーディング株式会社などのグループ企業と連携して事業を運営しています。

「ABS他」

柔軟な製品設計の技術によって
生み出された、ユニークな特徴を
持つ合成樹脂

JSRグループのABS樹脂を中心とした製品は、多様なニーズに柔軟に対応する技術力により生み出され、複数の特性を組み合わせたユニークな特徴を持っています。無塗装での外観の良さを発揮する樹脂や二次加工性の高い製品の開発など、樹脂製品の開発と部品設計に取り組んでおり、世界中のユーザーに高く安定した品質、付加価値の高い製品を提供しています。(※1)



一般、特殊、耐候性ABS系樹脂

高衝撃性、高流動性(良成形加工性)、耐熱性・高剛性を持つ製品や、耐候性の高い製品など幅広くラインアップしています。たとえば「耐熱グレード」は、実用耐性、耐衝撃性、加工性にも優れ、自動車部品、電気器具などに幅広く使用され、「耐候性グレード(DIALAC®シリーズなど)」は、高い水準の耐候性と加工性を兼ね備えており、自動車部品や建材部品など幅広く使用されています。



きしみ音対策材HUSHLLOY®

プラスチック部品のはめ合わせ箇所では、部品同士の擦れによって不快なきしみ音が発生します。これは接触面で生じる摩擦振動によって生じるもので、製品設計における大きな課題の一つとなっています。きしみ音に対して画期的な効果を有するスチレン系特殊熱可塑性樹脂「HUSHLLOY®」は、きしみ音対策のコストを削減できることに加えて、効果が永続的に持続します。



めっき用材料PLATZON®

長年にわたるめっきABSのグローバルでの販売・供給実績で培った独自のポリマー開発技術をもとに開発した、極めて幅広いめっき加工品の生産条件(成形条件・エッチング温度および時間条件)に対応可能なPC/ABS、耐熱ABS材料です。生産プロセスにおける生産性向上と、めっき加工に伴う歩留まりの改善による環境負荷低減に貢献します。



高発色性材料VIVILLOY®

耐候性材料(DIALAC®シリーズ)やアロイ製品(他樹脂との複合材料)のグローバルでの長年にわたる販売・供給実績で培った独自のポリマー開発技術をもとに開発した、無塗装用途での高発色性材料です。無塗装でありながら塗装に近い深みや鮮やかさを複雑な用途および形状で再現できます。塗装工程の省略によりトータルコストダウン・環境負荷低減に貢献します。



(※1) 合成樹脂事業はテクノUMG株式会社などのグループ企業と連携して事業を運営しています。

DIGITAL SOLUTIONS BUSINESS デジタルソリューション事業

半導体材料

半導体材料の
グローバルマーケットリーダーを
目指し、さらなる微細化・高集積化に挑む

半導体製造において回路形成や高密度実装に欠かせないさまざまな高性能材料を
ラインアップし、世界の最先端半導体メーカーのニーズに応えています。(※1)



リソグラフィ材料

高集積化が進む大規模集積回路 (LSI) に対応した微細加工の世界では、
微細化の限界への挑戦と品質向上が求められます。リソグラフィ材料の製品
群としては、KrF (248nm)、ArF (193nm) および EUV (13.5nm) リソグラ
フィ用の高解像度フォトレジストをはじめ、液浸リソグラフィ用のトップ
コート材料、塗布型ハードマスクなどの多層材料まで、幅広いニーズに応
える最先端製品を取り揃えています。



先端実装材料

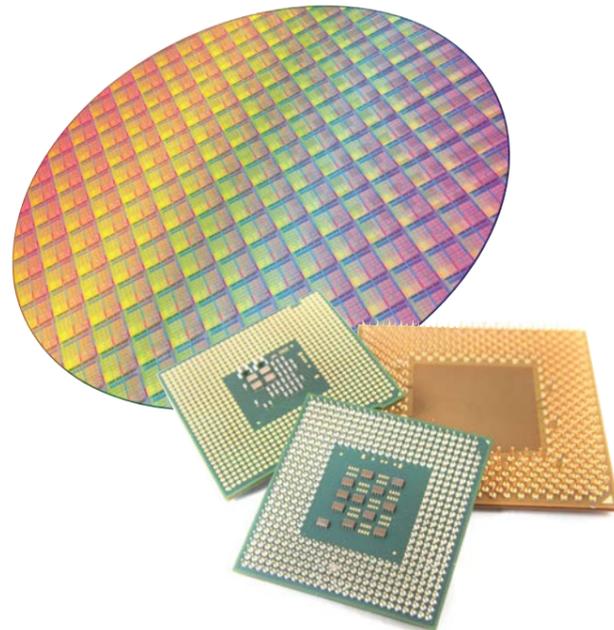
高密度化や三次元化が進む実装技術に必要な解像性・めっき液耐性に優れ
たバンプ・配線形成用厚膜フォトレジスト、高信頼性の感光性絶縁膜材料、
5G高速通信用低伝送損失材などで、複数の半導体を含む電子デバイスの
パッケージシステムの高性能化・高信頼化のニーズに応えます。

(※1) 半導体材料事業はJSR Micro, Inc.、JSR Micro N.V.、JSRマイクロ九州株式会社などの
グループ企業と連携して事業を運営しています。



CMP材料・プロセス材料

LSIの多層配線形成に不可欠なのがウェハ上の配線層や絶縁層などの薄膜を
平坦にする化学的機械的平坦化 (CMP) 技術です。JSRは高い平坦化特性と
低スクラッチ性を実現するさまざまな薄膜の研磨に対応したスラリーおよ
びウェハ上のCMP後の残留物を除去するためのCMP洗浄剤を提供して
います。その他、次世代の半導体製造に対応可能な各種プロセス材料も提供
しています。

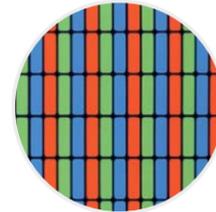


ディスプレイ材料

エッジコンピューティング関連

ディスプレイ市場や、ICTデバイスの進化に
対応するマテリアルで、世界をリードする

液晶テレビやパソコン、スマートフォンに欠かせない液晶ディスプレイ (LCD) で使われ
る材料から、ICTやAIなどによる技術革新、モバイルなどのデバイス進化に対応した材
料まで、高画質化・軽量化・低消費電力化といった市場ニーズに対応する材料を提供
しています。(※1)



LCD材料

LCDパネルは、何枚もの高機能材料による膜によって構成されており、
その中で多くの材料を手がけています。液晶の配列を整える配向膜「オプ
トマー®AL」、色を表示するための素材である着色レジスト「オプトマー®
OR」、保護膜「オプトマー®SS」、感光性透明有機膜「オプトマー®NN/PC」
などがあります。



耐熱透明樹脂ARTON® (アートン)

「ARTON®」は優れた光学特性、寸法安定性、さらに画期的な耐熱性を有す
る透明な樹脂 (環状オレフィン樹脂) で、光学フィルム、レンズなどの光学的
用途に最適な高機能樹脂です。環状オレフィン樹脂でありながら分子鎖中に
極性基を持っているため、密着性、接着性、混和性が良好です。



OLED材料

有機ELディスプレイ (OLED) 向けに、絶縁膜や平坦化膜などを展開してい
ます。また、カラーフィルターを適用した大型のW-OLED向けには、顔料分散
レジストや絶縁膜を展開しています。その他、オンセルタッチセンサー向け
に低温硬化の絶縁膜や、円偏光板向け関連材料など、これからの顧客ニーズ
に対応した新規材料を提供していきます。



光造形システム(※2)

工業用の3Dプリンターです。三次元CADで作成した立体像をデータ上で
スライスし、その層に対応する図形をUVレーザー光によって紫外線硬化
樹脂に描画。これを繰り返すことで立体像を作成するというのが「光造形
システム」です。透明性・耐熱性・機械的特性に優れた樹脂により精密な
立体像を短時間で製作することができます。

(※1) ディスプレイ材料事業はJSR Micro Korea Co., Ltd.、JSR (Shanghai) Co., Ltd.、
JSR Micro Taiwan Co., Ltd.などのグループ企業と連携して事業を運営しています。
(※2) 光造形システムはJSRグループである株式会社ディーメックにて事業を運営しています。

LIFE SCIENCES BUSINESS ライフサイエンス事業

創薬支援サービス

マテリアルの可能性を追求し、医療の現場に変革をもたらす

主に抗体医薬品の開発、創薬から製造まで、一貫したプロセス支援体制により、医薬品開発プロセスの革新に貢献します。

バイオプロセス材料

診断・研究試薬材料

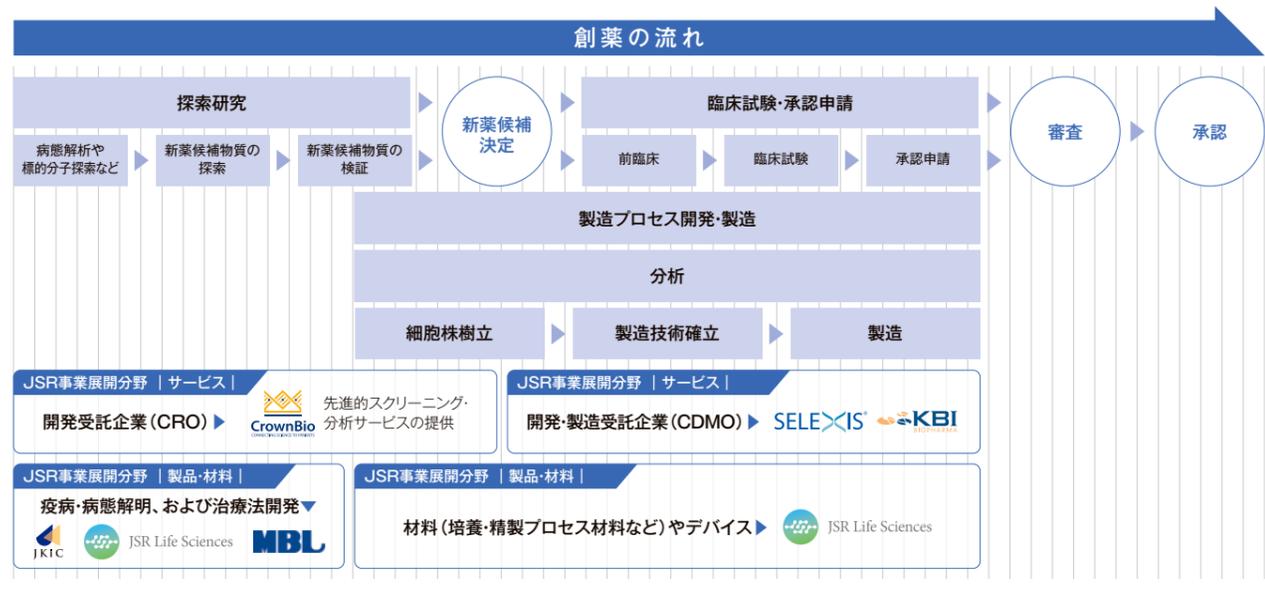
JSRの培った高分子技術を応用し医療用途に貢献する

バイオプロセス材料や診断・研究試薬材料で抗体医薬などに代表されるバイオ医薬品の効率的な開発・製造と、より高度な疾病診断および予防診断に貢献していきます。

創薬支援サービスとは

これからの医療の大きな課題は、健康寿命を延ばすことと、医療費の膨張を抑えることです。そのためには「個別化医療」「治療から予防へ」という考え方が大切になります。JSRグループは病院や医師、大学などが取り組む「先端診断分野」や、製薬企業などにサービスを提供する「バイオプロセス分野」を中心に事業展開を進めています。

抗体医薬の開発受託企業(CRO)のCrown Bioscience, Inc.や抗体の知見と技術が豊富な(株)医学生物学研究所、開発・製造受託企業(CDMO)のSelexis SA, KBI Biopharma, Inc.などの各グループ企業が一体となり、創薬から製造までの一貫したプロセス支援体制をグローバルで展開しています。これらの一連の創薬支援サービスを提供することで、医薬品の開発成功率の向上や開発期間短縮に貢献していきます。



バイオプロセス材料

精密なポリマー合成技術・表面修飾技術と遺伝子工学技術を融合し、バイオ医薬品の製造プロセスに寄与する材料を開発しています。抗体医薬の精製工程で用いるプロテインAアフィニティ担体「Amsphere® (アムスフェア) A3」を国内外多数の製薬会社に提供しています。



診断・研究試薬材料

JSRグループはタンパク質、核酸、細胞などの生体材料を単離・精製するための研究用試薬や、個別化医療の鍵となる疾患診断のための体外診断用試薬などを提供しています。代表例として、磁性粒子 Magnosphere™、免疫診断試薬用のラテックス粒子 IMMUTEX™、ブロッキング試薬 Blockmaster™ があります。



ライフサイエンス関連グループ企業



Crown Bioscience, Inc.

CRO

がん、炎症性疾患、心血管疾患および代謝性疾患領域向けの薬効試験サービスの提供および抗体医薬開発



KBI Biopharma, Inc.

CDMO

バイオ医薬品開発に係る分析、プロセス開発、および製造の受託



JSR Life Sciences, LLC

ライフサイエンス事業 (グローバル) の戦略的統括、ライフサイエンス製品の米国販売



JSR・慶應義塾大学

医学化学イノベーションセンター (JKiC)

次世代医療、長寿健康社会を目指した産学医連携研究



株式会社医学生物学研究所

CRO

臨床検査および基礎研究試薬の研究、開発、製造、販売



Selexis SA

CDMO

生物学的療法およびワクチンの発見、開発および製造のためのタンパク質および抗体を発現するために使用されるクローン細胞株の開発



JSRライフサイエンス株式会社

抗体医薬品の精製工程で用いるプロテインA担体などを含む、ライフサイエンス関連製品の製造

明日の材料を創る、 Materials Innovationの原動力

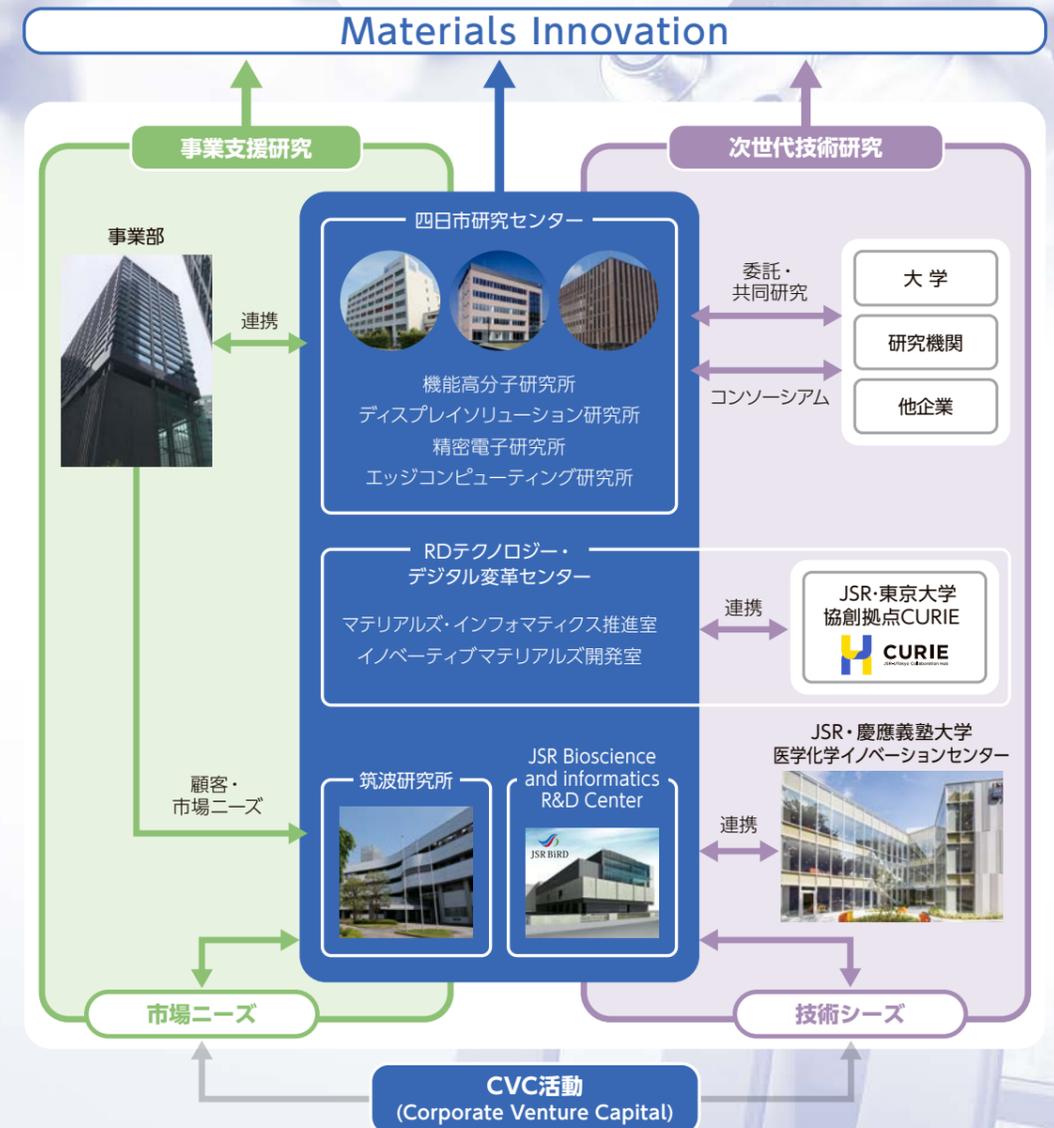
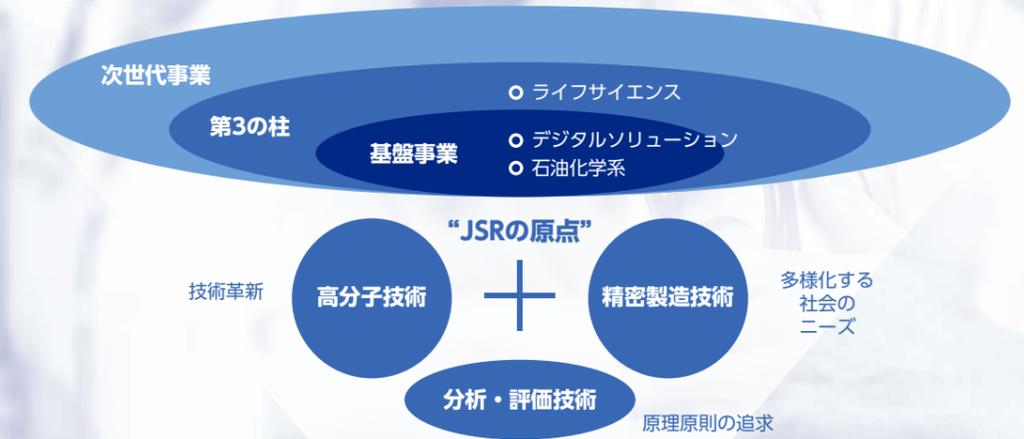
JSRグループは、コア技術である高分子技術および精密製造技術の深耕とともに、光化学・無機化学・精密加工技術・バイオテクノロジーといった異分野技術との融合を通して技術領域を拡大しながら研究開発活動を進めてまいりました。

また分析・評価技術の深掘りをはじめ、原理原則の理解・追及も重視しております。こうした研究開発活動の積み重ねが世界の化学会社の中でも独自の強みとなり、優位性のある技術・素材をグローバルに展開する原動力になっています。



JSRグループでは、デジタル革命を起点とする変動や個別化医療・健康長寿への関心の高まりなど、急速に変化する社会ニーズに備えるべく、研究開発活動を進めています。研究部門のミッションは、現在展開している事業領域における「事業支援研究」と、その周辺分野における新規・応用研究、将来大きな成長が見込まれるシーズ研究などの「次世代技術研究」の大きく2つに分かれます。

事業支援研究推進に当たっては、市場開発からプロセス開発、製造技術開発、さらには製造、販売、物流といったグループ内のバリューチェーンとの連携を重視しています。研究者自身がニーズを掘り下げるため顧客に直接伺うなど、研究開発と事業の一体化を推進するとともに、各国での技術サービスを充実させ、顧客の事業推進をグローバルかつタイムリーに支援できる体制を構築しています。



シーズ研究などの次世代技術研究については市場の潜在ニーズを先取りした研究開発に取り組んでおり、研究開発変革の加速のため2020年6月に関連部門を「RDテクノロジー・デジタル変革センター」に再編しました。特に新たな分野では国内外の大学や研究機関との共同研究などのオープンイノベーションを推進しており、ライフサイエンス分野のJSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC) に続き、原理原則に裏打ちされた研究開発を推進すべく、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻と「JSR・東京大学協創拠点CURIE」を2020年4月に設立し、共同研究を始めております。また、次世代医療およびマテリアルズ・インフォマティクスを軸としたオープンイノベーション拠点として、神奈川県川崎市の殿町国際戦略拠点 キング スカイフロントに「JSR Bioscience and informatics R&D Center (JSR BiRD)」の建設を進めており、2021年7月稼働予定です。

優れた製品を世の中に送り出す

独自の高分子技術と精密製造技術は、JSRグループの強みであり、新製品の開発から製造までのそれぞれの現場で新たな可能性に挑み続けて手にした財産です。JSRグループは技術面の強みだけでなく、お客様へ品質の良い製品を提供し続けるため、研究開発から製造に至る各部門で品質管理を徹底して信頼性を高めています。



生産技術 / プロセス開発

すべての事業領域において不可欠な高度な技術。

生産技術部門では、研究者が開発した新しい材料を実験室からプラントの製造設備へスケールアップして商業生産ステージへ進めていきます。その時求められるのは、機能・性能の発現はもちろん、安全かつシンプルなプロセスでいかに低製造コストを実現するか、です。実験室で生まれた素晴らしい性能を持つ材料も安定的に経済的に生産できなければ市場では受け入れられません。実験室では問題なかったことが、商業生産スケールではうまくいかないことも多々あります。

技術・性能の優位性を高めるだけでなく、安定した製品性能の発現と収益性を両立させることが、競争力につながります。研究開発の成果に、最適な生産プロセスと最適な設備設計を組み合わせることで、開発された新しい材料のビジネスチャンスを実際に獲得していきます。

製造

安全・環境に配慮した工場で高い品質を確保。

開発された新しい材料を安定的に供給していくことが材料提供メーカーの責務です。JSRグループの主要拠点は、国内では四日市工場（三重県四日市市）、千葉工場（千葉県市原市）、鹿島工場（茨城県神栖市）であり、このほかにも国内および世界各地で、市場や顧客のニーズに応える生産活動を行っています。製造では、安全・環境・品質を高いレベルで実現できるよう日々の活動を積み重ねながら、工場の安全安定操業に努めています。レスポンス・ケア活動として、積極的に安全・健康・環境対策を実行し、継続的に改善を図っていく自主管理活動も進めています。製造技術センターでは、日々の生産活動の中で発生する課題を見つけ出し解決を図ることで、さらなる製造技術の向上に取り組んでいます。また、JSRの全工場では、ISO9001・14001（品質・環境マネジメントシステム）の認証を取得し、製品の安定供給と生産活動の継続的な改善に努めています。

サステナビリティに関する取り組み

企業理念に基づき、 企業活動を通じて価値創造することで、 持続可能な地球環境や社会の実現に貢献する。

企業理念

MATERIALS INNOVATION

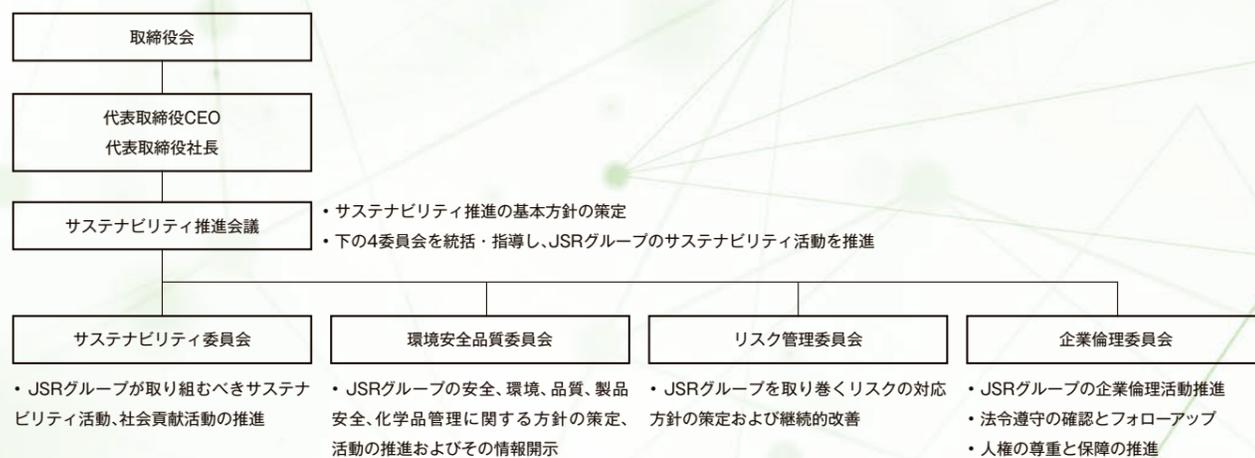
マテリアルを通じて価値を創造し、
人間社会(人・社会・環境)に貢献します。

経営方針

JSRグループは、掲げている企業理念を実行するため、2つの軸により経営方針を構成しています。
一つは、持続的成長を続けるための普遍的な経営方針としての「変わらぬ経営の軸」、
もう一つは、社会の一員としての責任を表した「ステークホルダーへの責任」です。

変わらぬ経営の軸 | ●絶え間ない事業創造 ●企業風土の進化 ●企業価値の増大
ステークホルダーへの責任 | ●顧客・取引先への責任 ●従業員への責任 ●社会への責任 ●株主への責任

サステナビリティ推進体制図



顧客・取引先への責任

お客様のニーズに合った「革新素材」「良い製品」を提供し、より良い社会の実現に貢献していくことは、当社グループの最も重要な役割であると考えています。お客様に安心してお使いいただけるよう、当社グループでは品質保証活動、製品安全に対する取り組みにも力を入れています。これらの取り組みが認められ、世界の顧客からトップランクのサプライヤー賞を受賞しています。また、お取引先様とのコミュニケーションを通じて、JSRの事業活動の改善につなげています。

従業員への責任

従業員が課題を正しく認識、解決でき、組織能力が維持向上できる仕組みの構築と企業文化の醸成に取り組んでいます。また、働き方改革(ワークスタイルイノベーション)を推進し、業務の付加価値の向上への取り組みにも力を入れています。一方で、JSRグループのグローバル人事体制を整備し、グループ・グローバルレベルでの人材育成・人材管理を行っています。多様な人材の活躍により相乗効果が生まれています。

社会への責任

JSRグループは、事業活動を行う地域・社会からの高い信頼を得るため、レスポンシブル・ケア活動を通じて、安全・健康・環境面の改善を図っています。製品を生産する工場を中心に、化学物質の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄に至る全工程にわたって自主的に「環境・安全」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行いながら改善につなげています。工場の温室効果ガス排出量削減などの環境リスク低減への努力を継続する一方で、環境配慮型製品の開発などの新規事業機会を創出する取り組みを行い、2つの側面で企業と社会にとってサステナブルな価値の創出を目指しています。また、生物多様性の保全、廃棄物の削減や再資源化などの資源循環、社会貢献活動など、社会の持続可能な開発への取り組みを行っています。

持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

2015年9月に国連にて人間および地球の繁栄のために、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。極度の貧困と飢えをなくす、といった従来の開発目標に加え、ジェンダーの平等や良好な雇用環境づくり、生産と消費の見直し、気候変動緩和や資源保護、安全なまちづくりなど、先進国が直面する課題も入っています。JSRグループは、企業活動を通じて価値創造することで、SDGsの実現に貢献していきます。



詳しい情報は、
当社ホームページ【サステナビリティ】をご覧ください。

株主への責任

IR活動を通して、株主・投資家に経営状況と会社の方針について迅速かつ正確にお伝えするよう努めています。定時株主総会では、集中日を避けた早期開催、株主総会招集通知の早期発送、インターネットによる議決権行使の採用などを実施し、株主の議決権行使を円滑にしています。四半期ごとの決算説明会のほかに、機関投資家・アナリスト向けセミナー(技術セミナーなどを含む)の開催など、幅広く双方向のコミュニケーションを図っています。

国連グローバル・コンパクトへの参加

JSRグループは、2009年4月14日付で、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。企業の社会的責任が強く求められる中、グローバルに事業活動する企業として、グローバル・コンパクトの10原則が謳う人権・労働・環境・腐敗防止へのより一層の配慮が必要と認識しています。私たちはグローバル・コンパクトへの参加を国際社会の中で責任ある行動を実践するための「宣言」と位置付け、より積極的に「企業の社会的責任」を果たしていきます。



www.unglobalcompact.org.

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



JSRグループは、41カ所の海外拠点において、グローバルに事業展開を行っています。

[2020年7月31日現在]

- ① JSR Micro N.V. ●●
- ② EUV Resist Manufacturing & Qualification Center N.V. ●
- ③ KBI Biopharma BVBA ●
- ④ JSR Elastomer Europe GmbH ●
- ⑤ JSR MOL Synthetic Rubber Ltd. ●
- ⑥ Selexis SA ●
- ⑦ Techno-UMG Europe GmbH ●

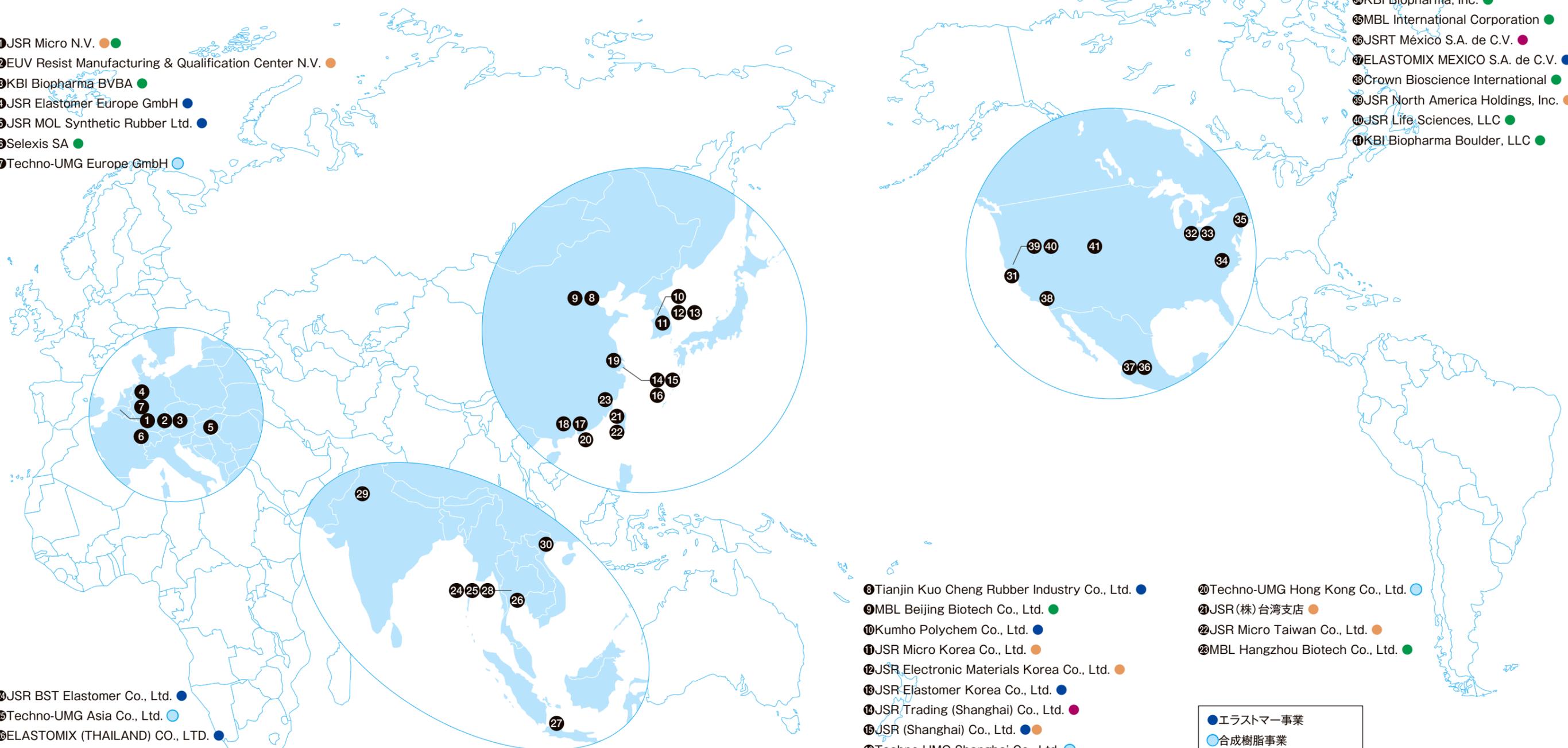
- ④ JSR BST Elastomer Co., Ltd. ●
- ⑤ Techno-UMG Asia Co., Ltd. ●
- ⑥ ELASTOMIX (THAILAND) CO., LTD. ●
- ⑦ PT. ELASTOMIX INDONESIA ●
- ⑧ JSR Trading Bangkok Co., Ltd. ●
- ⑨ JSR Elastomer India Private Limited ●
- ⑩ JSR Trading Vietnam Co., Ltd. ●

- ⑧ Tianjin Kuo Cheng Rubber Industry Co., Ltd. ●
- ⑨ MBL Beijing Biotech Co., Ltd. ●
- ⑩ Kumho Polychem Co., Ltd. ●
- ⑪ JSR Micro Korea Co., Ltd. ●
- ⑫ JSR Electronic Materials Korea Co., Ltd. ●
- ⑬ JSR Elastomer Korea Co., Ltd. ●
- ⑭ JSR Trading (Shanghai) Co., Ltd. ●
- ⑮ JSR (Shanghai) Co., Ltd. ●●
- ⑯ Techno-UMG Shanghai Co., Ltd. ●
- ⑰ Techno-UMG Guangzhou Co., Ltd. ●
- ⑱ ELASTOMIX (FOSHAN) CO., LTD. ●
- ⑲ JSR Micro (Changshu) Co., Ltd. ●

- ⑳ Techno-UMG Hong Kong Co., Ltd. ●
- ㉑ JSR (株) 台湾支店 ●
- ㉒ JSR Micro Taiwan Co., Ltd. ●
- ㉓ MBL Hangzhou Biotech Co., Ltd. ●

- エラストマー事業
- 合成樹脂事業
- デジタルソリューション事業
- ライフサイエンス事業
- 共通・その他

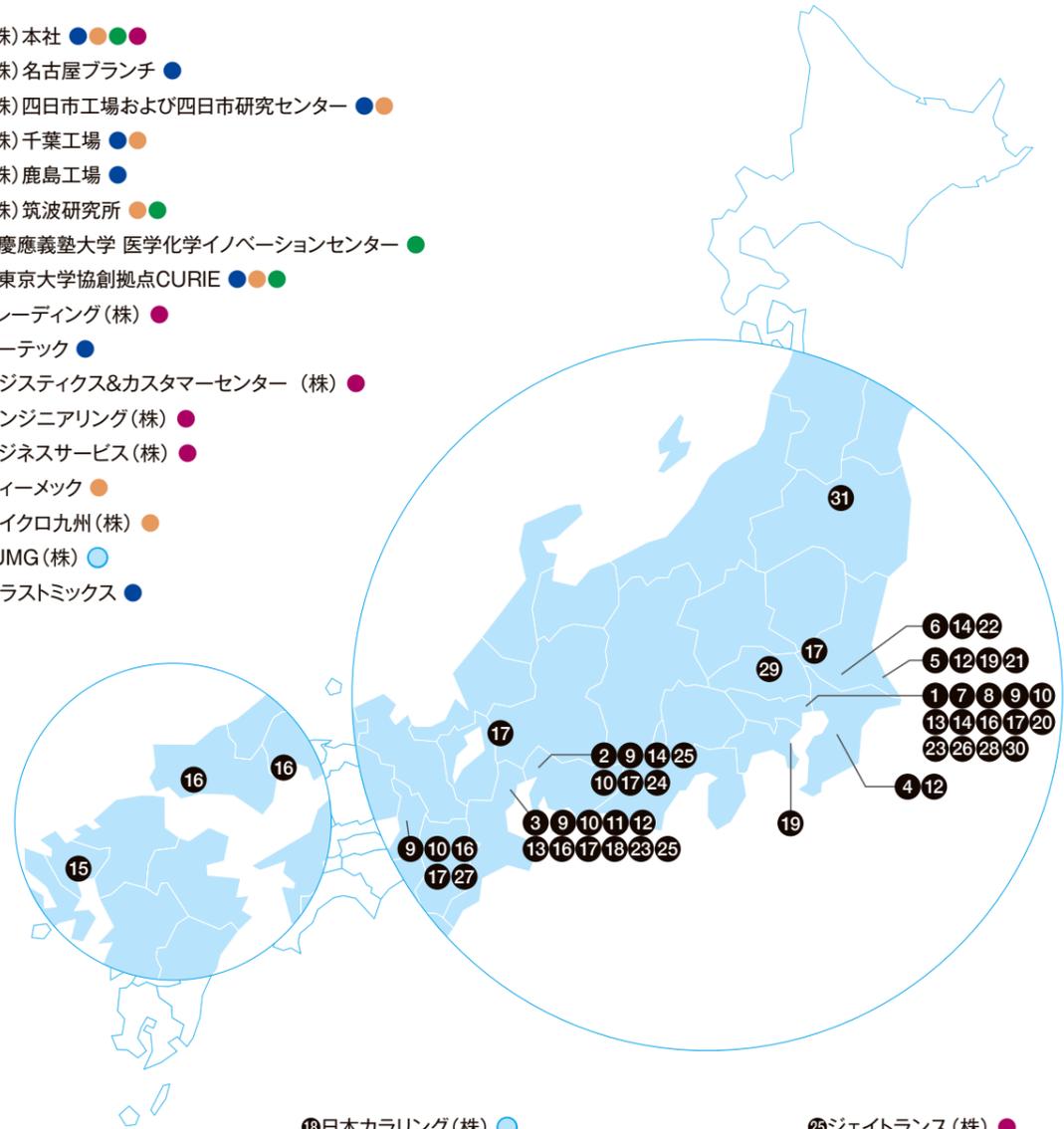
- ⑳ JSR Micro, Inc. ●●
- ㉑ JSR Elastomer America, Inc. ●
- ㉒ Techno-UMG America, Inc. ●
- ㉓ KBI Biopharma, Inc. ●
- ㉔ MBL International Corporation ●
- ㉕ JSRT México S.A. de C.V. ●
- ㉖ ELASTOMIX MEXICO S.A. de C.V. ●
- ㉗ Crown Bioscience International ●
- ㉘ JSR North America Holdings, Inc. ●●
- ㉙ JSR Life Sciences, LLC ●
- ㉚ KBI Biopharma Boulder, LLC ●



国内ではJSRの本社、主要製造施設・研究施設 および23のグループ会社を構えています。

[2020年7月31日現在]

- ① JSR (株) 本社 ●●●●●
- ② JSR (株) 名古屋ブランチ ●
- ③ JSR (株) 四日市工場および四日市研究センター ●●
- ④ JSR (株) 千葉工場 ●●
- ⑤ JSR (株) 鹿島工場 ●
- ⑥ JSR (株) 筑波研究所 ●●
- ⑦ JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター ●
- ⑧ JSR・東京大学協創拠点CURIE ●●●
- ⑨ JSRトレーディング (株) ●
- ⑩ (株) イーテック ●
- ⑪ JSRロジスティクス&カスタマーセンター (株) ●
- ⑫ JSRエンジニアリング (株) ●
- ⑬ JSRビジネスサービス (株) ●
- ⑭ (株) ディーメック ●
- ⑮ JSRマイクロ九州 (株) ●
- ⑯ テクノUMG (株) ●
- ⑰ (株) エラストミックス ●



- ⑱ 日本カラリング (株) ●
- ⑲ 日本ブチル (株) ●
- ⑳ 日本特殊コーティング (株) ●
- ㉑ ジェイエスアール クレイトン エラストマー (株) ●
- ㉒ JSRライフサイエンス (株) ●
- ㉓ JNシステムパートナーズ (株) ●
- ㉔ (株) 医学生物学研究所 ●
- ㉕ ジェイトランス (株) ●
- ㉖ (株) レキシー ●
- ㉗ (株) 護光商会 ●
- ㉘ JSR Active Innovation Fund 合同会社 ●
- ㉙ ラビセラ (株) ●
- ㉚ エムビーエルベンチャーキャピタル (株) ●
- ㉛ G&Gサイエンス (株) ●

- エラストマー事業
- 合成樹脂事業
- デジタルソリューション事業
- ライフサイエンス事業
- 共通・その他

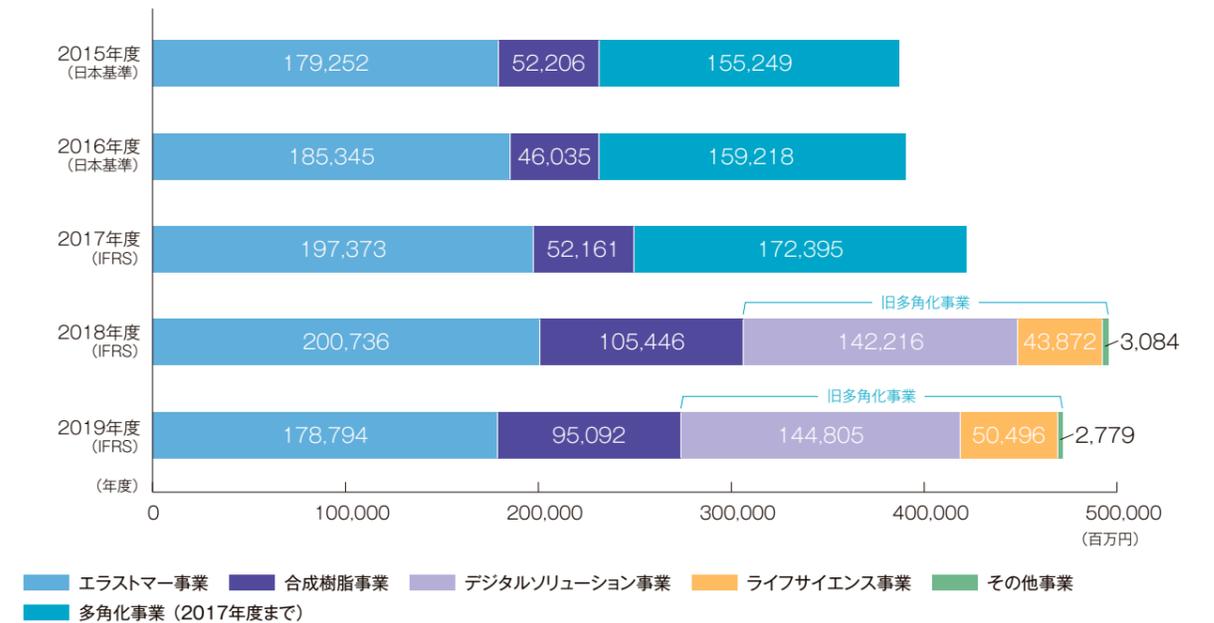
■ 設立年月日	1957年(昭和32年)12月10日
■ 資本金	23,370百万円
■ 連結従業員数	9,050名(2020年3月31日現在)

■ 役員

代表取締役 CEO	常勤監査役	上席執行役員	執行役員
エリック ジョンソン	岩淵 知明	山脇 一公	小林 英一
代表取締役社長 兼COO	社外監査役	土居 誠	水野 陽一
川橋 信夫	加藤 久子	山口 佳一	藤井 安文
取締役会長	森脇 純夫	阿部 一至	山近 幹雄
小柴 満信	専務執行役員	中山 美加*	ティム ローリー
取締役	川崎 弘一*	佐伯 光一	原 弘一
川崎 弘一	常務執行役員	高橋 成治	高橋 純一
宮崎 秀樹	平野 勇人		脇山 恵介
中山 美加	井上 勝也		立花 市子
社外取締役	宮崎 秀樹*		木村 徹
松田 譲	須原 忠浩		吉本 豊
菅田 史朗			徳久 博昭
関 忠行			

※は取締役兼務

■ 事業別売上収益の推移



※2018年度より、報告セグメントの区分を変更し、多角化事業は廃止して、デジタルソリューション事業(旧ファイン事業)・ライフサイエンス事業・その他事業に分けております。
※2018年度、2019年度は継続事業の合計金額を表示しております。

JSR株式会社

本社

東京都港区東新橋1-9-2 〒105-8640
汐留住友ビル
Tel : 03-6218-3500(代表)
Fax : 03-6218-3682(代表)

名古屋ランチ

愛知県名古屋市中村区名駅3-28-12
大名古屋ビルヂング15F 〒450-6415
Tel : 052-533-2260
Fax : 052-586-0261

四日市工場

三重県四日市市川尻町100 〒510-8552
Tel : 059-345-8000
Fax : 059-345-8111

千葉工場

千葉県市原市千種海岸5 〒299-0108
Tel : 0436-62-4161
Fax : 0436-62-1946

鹿島工場

茨城県神栖市東和田34-1 〒314-0102
Tel : 0299-96-2511
Fax : 0299-96-5695

四日市研究センター

三重県四日市市川尻町100 〒510-8552
Tel : 059-345-8084
Fax : 059-345-8118

筑波研究所

茨城県つくば市御幸が丘25 〒305-0841
Tel : 029-856-1001
Fax : 029-856-1003

JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター

東京都新宿区信濃町35 〒160-8582
Tel : 03-6274-8602
Fax : 03-6274-8649

JSR・東京大学協創拠点CURIE

東京都文京区本郷7-3-1 〒113-0033
東京大学大学院 理学系研究科物理学専攻

台湾支店

17F-C1, No.8, Zihciang S. Rd., Jhubei City, Hsinchu County 302,
Taiwan, R.O.C.
Tel : 886-3-657-6600
Fax : 886-3-657-6642

<https://www.jsr.co.jp/>

